

インターポート

兵庫教育文化研究所だより

No.174

2016年12月1日

発行所 兵庫教育文化研究所
〒650-0004

神戸市中央区中山手通 4-10-8

ICTを有効に使って 理科教育研究会 授業研究会

丹波市の小学校で、理科教育研究会の研究授業がおこなわれました。5年生の「雲と天気の変化」の単元でした。「疑問に思うことや不思議に思うことを話し合いを通して課題解決する学習方法に、どのように迫っていくか」と考え抜かれた教材を用いて授業を展開されました。



黒板に「雲画像」「アメダス画像」それぞれ10時間ごとに並べた3枚の写真が提示され、「雲の動きの変化と天気の変化の関係を考えよう」と課題が示されました。子どもたちはタブレットを1台ずつ持ち、画像を見ながら雲の動きや雨の動きに印をつけながらたどり、課題に迫っていきました。



途中、「雲画像」チームと「アメダス」チームに分かれて課題について話し合い、その結果を出し合う際には子どもたちが司会をし、教員は子どもたちの発表内容を板書する方法がとられていたので、子どもたちはのびのびと自分の考えを発表し、「雲がある所はよく雨がふっている」「雲も雨も東へ動く、西から東へ動く」など活発に意見が出されました。まとめでは「雲はおよそ西から東へ動いていくので、天気もおよそ西から東へ変化していく」という結論がどの子にも納得できるものとなっていました。

さらに、授業当日の学校上空の様子を1分おきに写真に撮り、それを早送りしながらこの学校の空も「雲が西から東へ動く」ことを確認したり、教材に使った雲画像やアメダス画像が音楽会の日の画像であることから「朝から雨が降っていたけど帰るころにはあがっていた」と思い出して自分たちの生活に結びつけたりすることによって、教材が一層子どもたちにとって身近なものとなりました。

授業後の研究会には丹波市内の若い教員も参加され、小中の課題のつながりや子どもの発言をめぐって様々な観点から論議されました。特に、機器の使い方や天気に関するアプリの紹介などICTを用いた効果的な授業づくりについて活発に意見交換がされました。また、今回は子どもたちが能動的・主体的に課題にとりくみ、対話があり、課題解決する、まさに、アクティブラーニングになっていたと意見が出され、子どもたちがいきいき活動し、発表し合っている点でも学級づくりと授業づくりが一体になってすすめられていたと総括して、授業研究会を終えました。